

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	大規模山林火災で強風により急速に延焼拡大し、林道が寸断され消防隊が撤退を余儀なくされた事案。
3. 体験した事例の中心的要素	災害現場は、道路が狭隘であり水利条件も悪かった。また、消防機関から現場到着するまでに長時間を要する場所であったため、初期の活動から消防力は劣勢であった。強風により急速に延焼拡大した火勢により道路は寸断され活動隊にも危険が及んだ。
4. 体験した事例の原因・理由	山林火災という特殊な状況で、水利条件も悪く消防車が部署出来る位置が斜面上の狭隘な道路であり、延焼経路が部署位置に到達することが予想できるなかで風下に部署せざるをえない状況であったこと。

【体験した事例の直接的原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。(延焼の広がりが思ったより早かった等)
------------------	---------------------------------

【体験した事例について】



1. 発生日時	平成28年8月8日 午後6時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：山林内の急斜面を横断する狭隘な道路。
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷しそうになった。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	重傷の怪我をしていた(させていた)だろう
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	退路の消失、寸断、火傷・熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動初期、[林野]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

● ●

○当事者A	年齢[47]歳、勤続年数[22]年、現場経験年数[22] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [初めて]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[30]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6] 年、階級[消防士長] 同様の活動 [初めて]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[23]歳、勤続年数[3]年、現場経験年数[3] 年、階級[消防士] 同様の活動 [初めて]、任務 [隊員]
○その他(当事者が4人以上の場合)	他に年齢28歳と31歳の消防士が2名(機関員)。最先着した消防隊2隊計5名

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	A	CAFSによる消火活動を指示した。	
経過2	B、C	斜面をホース延長した。	
経過3	B、C、その他	CAFSを使用し放水を開始した。	
経過4	B、C、その他	ポンプ車の積載水がなくなり放水中止。	
経過5	A、B、C	強風により煙及び熱気に巻かれそうになった。	
経過6	A	退避を指示した。	
経過7	B、C、その他	退避した。	
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

● ●

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

避難退避がうまくいった 指揮者が適切に指示した 他隊(員)との連携活動がうまくいった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	はい
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用 방법이誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	はい
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	はい

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	はい

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

--

○装備・資機材の対策について

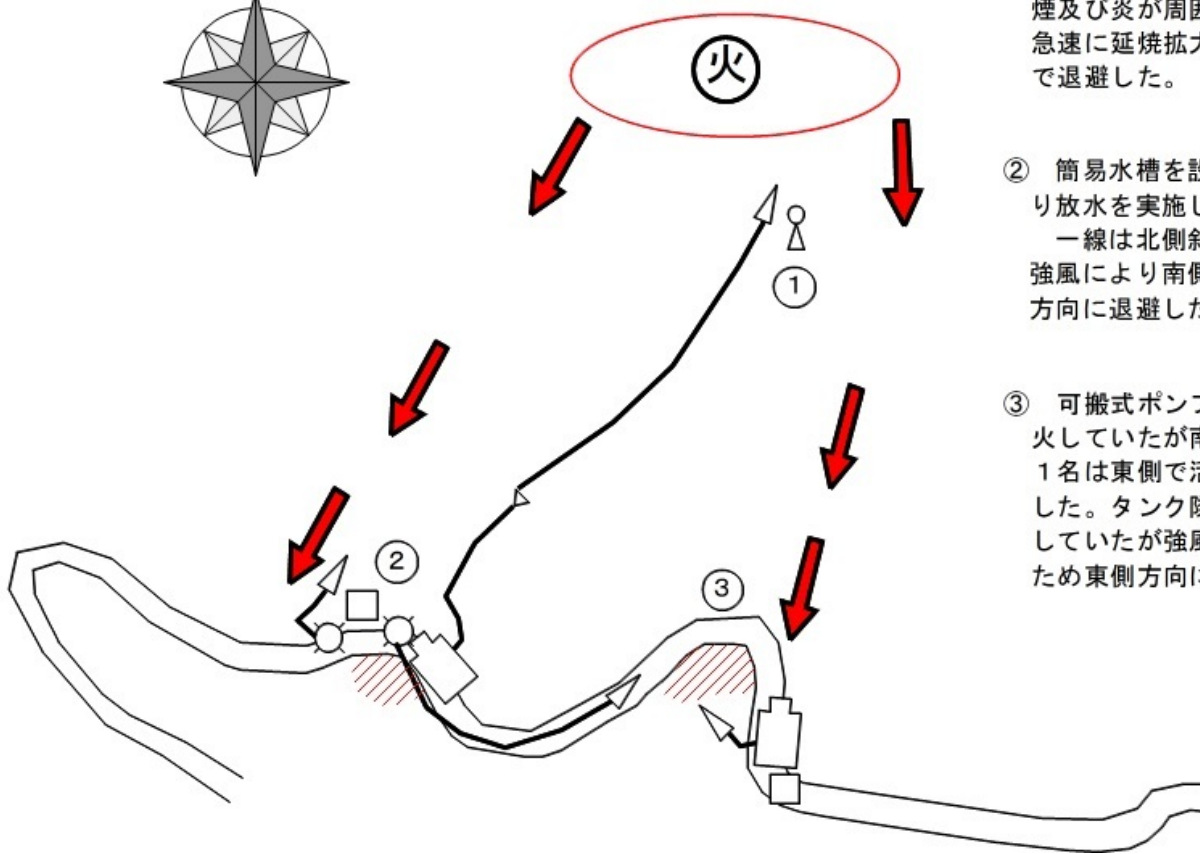
--

○活動環境の対策について

--

○指揮・情報伝達の対策について

--



① C A F Sを使用し消火活動を実施したが強風に煽られ十分な効果は得られず、また煙及び炎が周囲に急速に広まった。急速に延焼拡大したため、消防隊は道路まで退避した。

② 簡易水槽を設置し可搬式ポンプ2台により放水を実施した。
一線は北側斜面に放水を実施していたが強風により南側の斜面に延焼した為、西側方向に退避した。

③ 可搬式ポンプからの一線で北側斜面を消火していたが南側斜面に延焼した為、隊員1名は東側で活動していたタンク隊と合流した。タンク隊は南側の斜面に放水していたが強風により急速に延焼拡大したため東側方向に退避した。